

大分合同新聞

2023年(令和5年)1月3日(火曜日)



川島整形外科病院 理事長
川島 真人氏

地域医療の充実へ人材を育成

「3年超に及ぶ新型コロナウイルス禍で、民間の医療施設は大変な目に遭った。ウィズコロナの中で、地域の各病院や歯科、介護施設などと連携を図り、患者さんに対応してきた」と昨年を振り返る。アフターコロナを見据え「連携・結束の良いチャンス。より強化させたい」と意気込む。

中津市に開院して42年。骨・関節感染症の「川島式」治療と高気圧酸素治療を、吉翁をはじめ、辞書がない中で解体新書を翻訳した藩医の前野良沢、大江医家、田原淳といった先人たちを生んだ。医療史には学びが多い」と説く。

「医療の充実に欠かせないのが人材の育成。尊敬する稲盛和夫さんには自らの心の在り方と他人への思いやり、松下幸之助さんには経営者としての理念と心構えを学んだ」と二人の経済人の名を挙げる。医師、看護師、職員のコミュニケーションは必要不可欠と考え、研修会や勉強会などを通じて認識と意識を高めている。「Z世代」と言われる若者世代への

軸に、地域医療の充実を目指してきた。現在はクリニック、通所リハビリテーション、介護老人保健施設などの関連施設を整え、1981年3月に15人で始まったスタッフ・職員は、今や460人を数える(2022年11月現在)。

幕末の蘭学者で中津に縁のあった高野長英が残した「水滴は岩をも穿つ」をモットーに、常にチャレンジ、パイオニア精神を大切にしてきた。「中津は福沢諭

対応にも心を配る。

午前7時半のカンファレンスに始まり、検診、回診、外来、論文執筆と、休む間もない日々の癒やしは音楽。中学生時代のフルートに始まり、ケーナ、前野良沢も愛していた一筋(ヒストリー)をたしなむ。

中津地方文化財団協議会の会長。江戸期に蘭・洋学者を生んだ中津市と岡山県津山市、島根県津和野町による「三津同盟」の締結に尽力しシンポジウムの中津開催を探る。旺盛な活動の数々。幕末の志士高杉晋作の名言を口にし「面白きこともなき世を面白く」と意気盛んだ。

病院DATA

- 診療科目
整形外科・リハビリテーション科
リウマチ科・放射線科・脳神経外科
- 診療時間
月～金/9:00～16:30
土/9:00～12:00
- 休診日
日曜、祝日、年末年始(12月30日～1月3日)



心技体そろう医療の実践を目指す



社会医療法人 玄真堂
川島整形外科病院

中津市宮夫17
TEL0979-24-0464
<http://kawashimahp.jp>

